



TITLE:

<大會抄録>地方財政の軟らかな解決

AUTHOR(S):

岩井, 茂樹

CITATION:

岩井, 茂樹. <大會抄録>地方財政の軟らかな解決. 東洋史研究 1995, 54(3): 559-560

ISSUE DATE:

1995-12-31

URL:

<https://doi.org/10.14989/154527>

RIGHT:

げる。これは、イスラム史上において古くから存在していたが、一七世紀以後のオスマン帝國においてもっとも廣範に適用され、一八世紀にはほぼすべての税がこれによつて徴收されるにいたつた。このように重要な研究分野であるにもかかわらず、徴税請負制研究は初歩的な制度史的事柄をのぞいては、いまだ未開拓なままに放置されている。報告では、一七世紀初頭のダマスカスとその近郊に関する徴税請負臺帳、一九世紀前半の西アナトリアのアーヤーンに関する史料などを手がかりに、この制度にまつわる諸問題の所在をまづ明らかにすることにした。

マクリーズィーの寫本 *Kitāb*

al-Durar al-Mudīya について

佐藤 次 高

ダマスクスのアサド圖書館には、アレppoのアラブ科學史研究所所藏のアラビア語寫本七〇〇點餘りがマイクロ・フィルムで收められている。一九九三年の秋、在外研究の折に、私はこのマイクロ・フィルム史料を調査する機會を得た。コレクションの多くは自然科學にかんするものであるが、そのなかにマムルーク朝時代のエジプトの歴史家マクリーズィー（一四四二年歿）による史書『イスラーム史の中の過ぎ去った眞珠』*Kitāb al-Durar al-Mudīya fi Ta'riḥ al-Duwal al-Islāmiya* が收められている。ウマイヤ朝の成立からアッバース朝の滅亡（一二五八年）までを對象とし、最

後にカイロのアッバース家カリフの事蹟が附け加えられている。

Kitāb al-Mawā'iz wal-Tihār bi-Dhikr al-Khiṭat wal-Āḥār, *Kitāb al-Sulūk li-Ma'rifa Duwal al-Mulūk*, *Kitāb al-Muqaffa al-Kabir* をはじめとしてマクリーズィーの著作は數多く知られているが、この *Kitāb al-Durar al-Mudīya* はこれまで研究者によつて利用されたことはないようである。また、マクリーズィーが、これ以外にイスラーム史の全體を見渡す歴史書を著わしたことも知られていない。報告では、この寫本の性格を多角的に検討し、あわせてイクターについての記述にも言及したい。

地方財政の軟らかな解決

岩井 茂 樹

萬曆三五年（一六〇七）、黄河の南岸に位置する河南省歸德府虞城縣で「軟擡」と名づける地方經費支辨の方法が實施された。これは谷口規矩雄氏が紹介され、一條鞭法において適切な改革を見ずに實役として残つた驛馬、河夫、大戸などの徭役の經費を一括計算し、「全縣の戸に均等に割り當てる」趣旨のもとに發案された制度であり、その具體的内容は不明だと論じられたものである。

この制度の發案者かつ命名者である楊東明なる人物は、虞城縣出身の進士。東林黨の人士とともに講學にはげむ一方、呂坤とも深い交友をもつていた。彼は、また縣内に「同善會」を組織したり、築堤、城壁修築、救荒、義學設立などの活動に盡力するなど、地方公

共の福利に盡力した人物でもあった。こうした活動の延長上に、この「軟擡」という制度も構想されたのだった。

この時期から清初にかけて、江南では「均田均役」の改革が實施された。一條鞭法後の地方經費問題に對處するという意味では、「軟擡」も「均田均役」も、同一の財政的土壤の上にあらわれたものである。私見によれば、こうした一條鞭法後の徭役改革は、「存留」と呼ばれることになる正規の地方經費の硬直性を彌縫する性質のものであるが、こうした文脈のなかで「軟擡」をどのように位置づけることができるか、考えてみたい。

ベトナム紅河デルタ村落史資料について

桜井 由躬雄

一九九〇年代にベトナム史研究は、いわゆる資料革命といわれる時代を迎えた。八〇年代以前にはほとんど不可能だった漢喃研究所所藏資料の公開をはじめ、一九世紀ベトナム研究の第一資料と思われた『大南寔錄』の元となった「阮朝硃本」、阮朝の各村落別地簿、俗例（村落傳統法）、家譜、碑文集成などの大量の資料の利用が可能になった。またフランス時代では各地の理事官文書の公開により、植民地時代の各村落の状況があらかになった。このためにベトナム史研究はまったく新たな段階に入った。九三年より始まった阪大の桃木至朗助教を代表者とする紅河デルタ歴史資料探求プロジェクトは、聞き取り、測量のような地域學的な資料収集のほか

に、村落に保存されている歴史資料の収集につとめ、とくにナムハ省ウーバン縣舊バックコック村において以下のような資料を発見、収集した。(1)各種合作社關係資料、(2)家譜、(3)碑文寫眞、拓本、(4)位牌、(5)祀堂、廟など宗教建築物に残る額、聯、(6)敕封(神靈への贈位書)、不動産關係文書。現在、この作業は繼續中である。本發表では、このような新出資料により、どのような紅河デルタ村落史の展望が開けるか、研究を例示する。

- (1) 各文書館の詳細については、拙稿「ベトナムにおいて新たに公開された漢籍資料について」『東方學』八八、一九九四。

禮忠簡と徐宗簡再論

永田 英正

居延漢簡は漢代史研究の貴重な史料であるが、中でも特に研究者の關心を集めている簡が幾つかある。居延舊簡中の所謂禮忠簡と徐宗簡は、その一例である。

禮忠簡は候長禮忠について奴婢の數、宅地や田地の面積、牛馬や牛車の數、それに各價格を記し、また徐宗簡は遼長徐宗について家族構成のほか宅地や田地の面積、用牛の數、それに各價格を記したものである。兩簡のこのような記載内容からして、かつて兩簡を以て財産税の申告書だとする見解が示された。しかしその後の検討で